



Hauri and Dragon
Presented by Hauri and Dragon

マウリと竜

元ハルヒラ



も^{mo}
く^{ku}
じ^{ji}

一

おはちび

0
0
4

二

マウリと黒^{kuro}い竜^{ryu}

0
0
9

三

イツカと黒^{kuro}い竜^{ryu}

0
2
9

四

マウリと竜^{ryu}く春^{haru}のはなし

1
2
5

五

神^{kami}様^{sama}は扉^{hei}の上^{ue}

1
5
1

六

ひとりぼっちのタンタ

1
8
5

七

それゆけ! 巡^{meguri}神^{gami}学^{gaku}園^{en}!!

2
1
5

八

マウリと竜^{ryu}と訪^{hou}問^{mon}者^{sha}

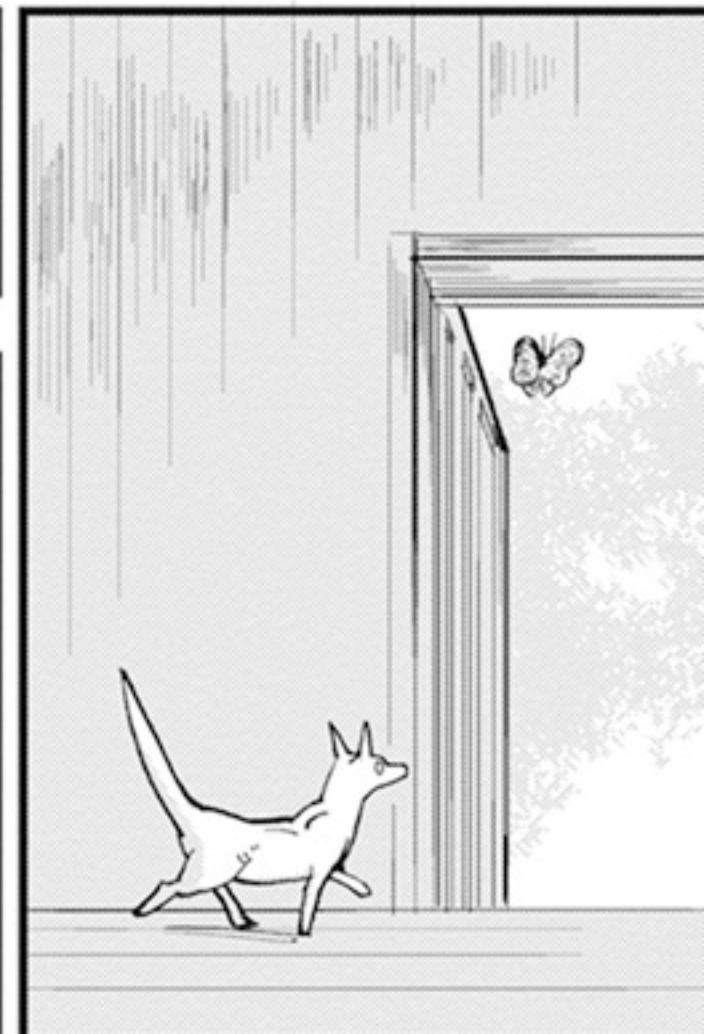
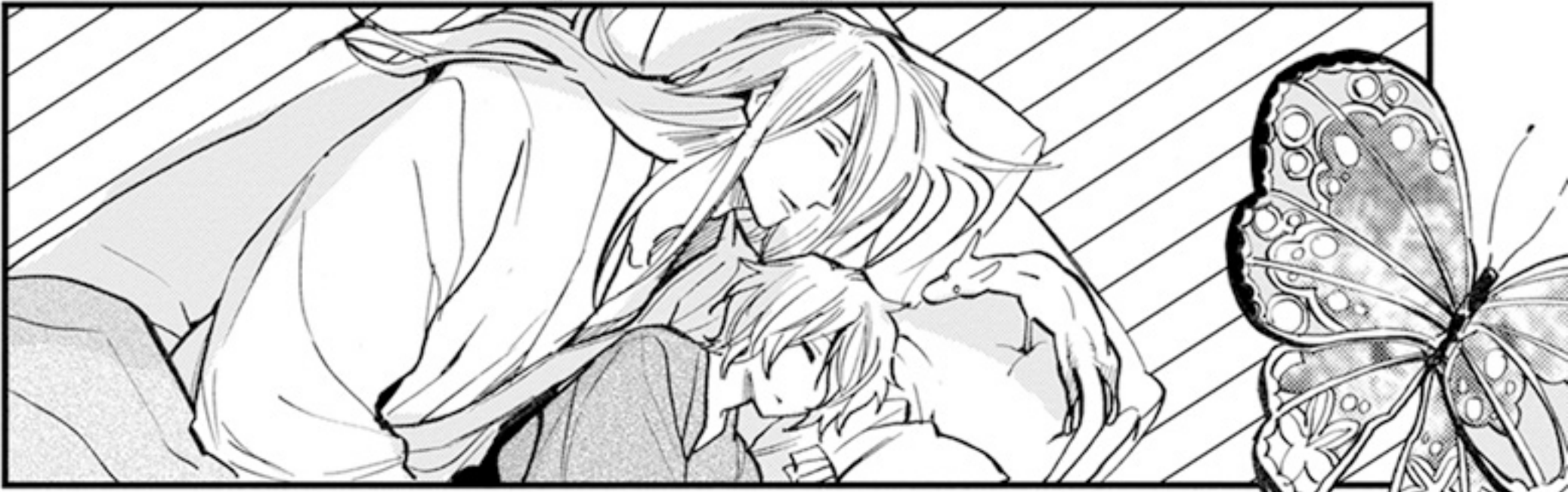
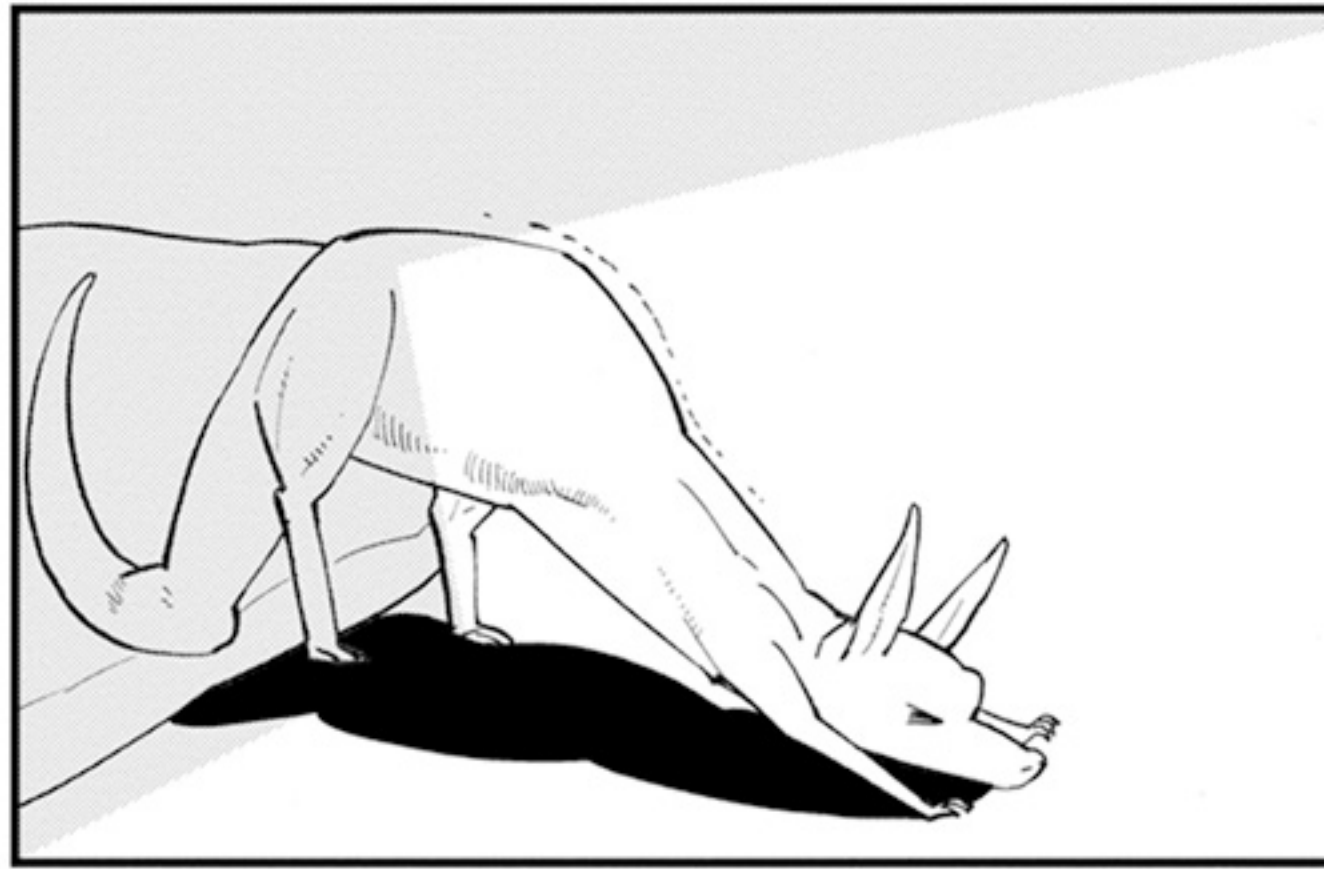
2
1
7



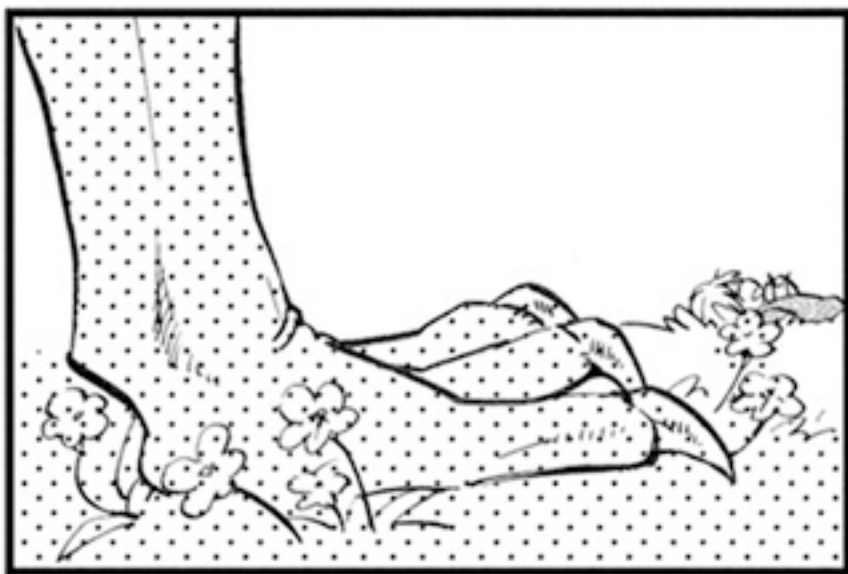
万能な力を待つ神が各地を巡り、土地を潤す時代。

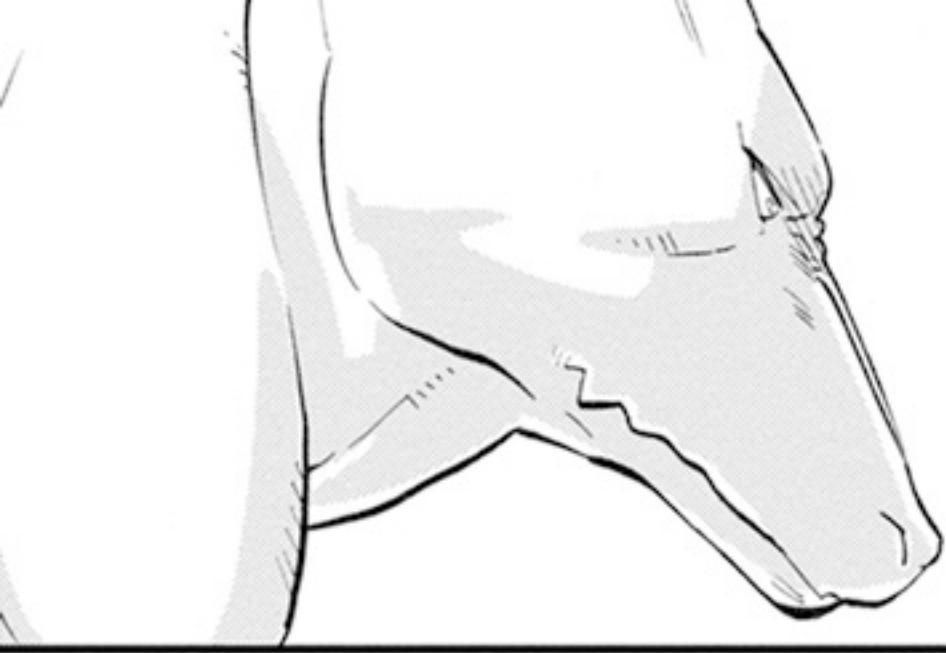
巡り神であった竜が、土地の守り神となり

一人の少年と暮らしていました。









仲間は
ずれに
すんなよ



おはよう



うるさいよ...




お寝坊さん



ニホは
ニホは
ニホは

END





このお話は、こんな風に
ちよつと可愛い神様たちが
恋しちやう物語です。

[MAURI-AND-BLACKDRAGON]

THE DRAGON GOD WORKS FOR EVERYONE'S HAPPINESS.
MOREOVER, IT WORKS FOR OWN HAPPINESS.

マウリと黒龍

まうりとくろいりゅう

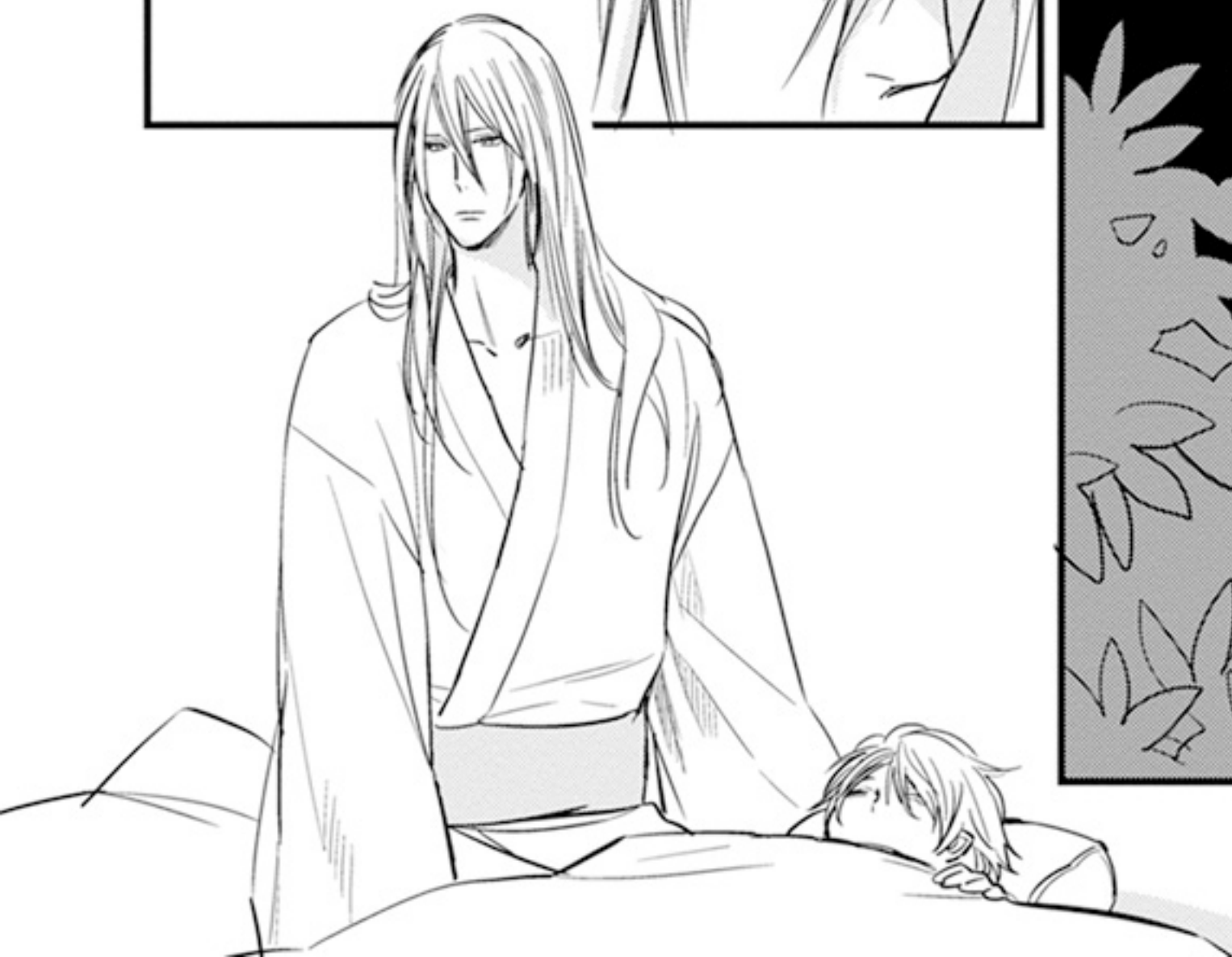
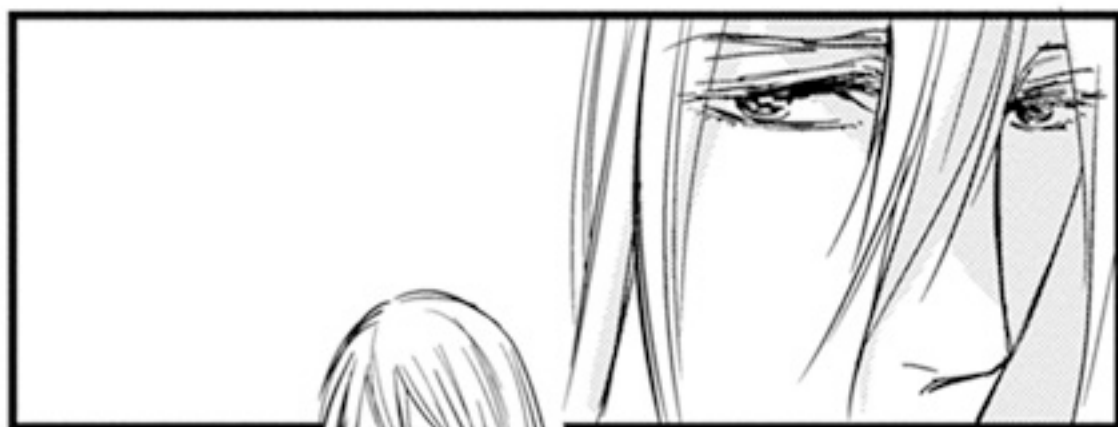




北^{きた}の国^{くに}に
静^{しず}かで平^{へい}和^わな
村^{むら}が
あり
まし
た



土^と地^ちの守^{まも}り神^{がみ}と
そ^そのつがいの少^{しょう}年^{ねん}、そ^そして
ふ^ふた^たり
の授^{さず}か^かつ^つた子^こ供^{ども}が
仲^{なか}睦^{むつ}じ^く暮^くら^らし^して
いま^{いま}し^した







ライカ



随分な
挨拶だ



ここは私の
守護がある
お前がいる場所では
ない

そうだ

ガライ、
お前：巡って
来たのか

のし...

のし...



寝てて
よいのに



神様？

マウリ



いいんだよ
ただの通りすがりだ

こいつは

そうだ

お前まえがライカの
相手あいてか

…ライカ

…神様かみさまの
知り合あい？

神様かみさまの
名前なまえだ

…少し休やすみたい
血ちを見みすぎた

場所ばしょを
貸かして
ほしい

名なとは
私達わたしたちにとって
とても
重要なじゅうようものだ

だから
こっさり
教えてやる

我が名は
ライカ

マウリの竜だ

不安そうな
顔だな

ここには
お前の加護が
ある

そう悪い
ことも
起きんよ

だと
良いがな

それに私は
お前の姿が
好きだ

は!?

あわ
淡く白く
光る身体は
とても綺麗だ...

それを
なんで
人間なんかと...

マウリ
少し酒を

えっ
うん



マウリは
ねてなさい



神様にも
知り合い…
友達？

いるんだなあ



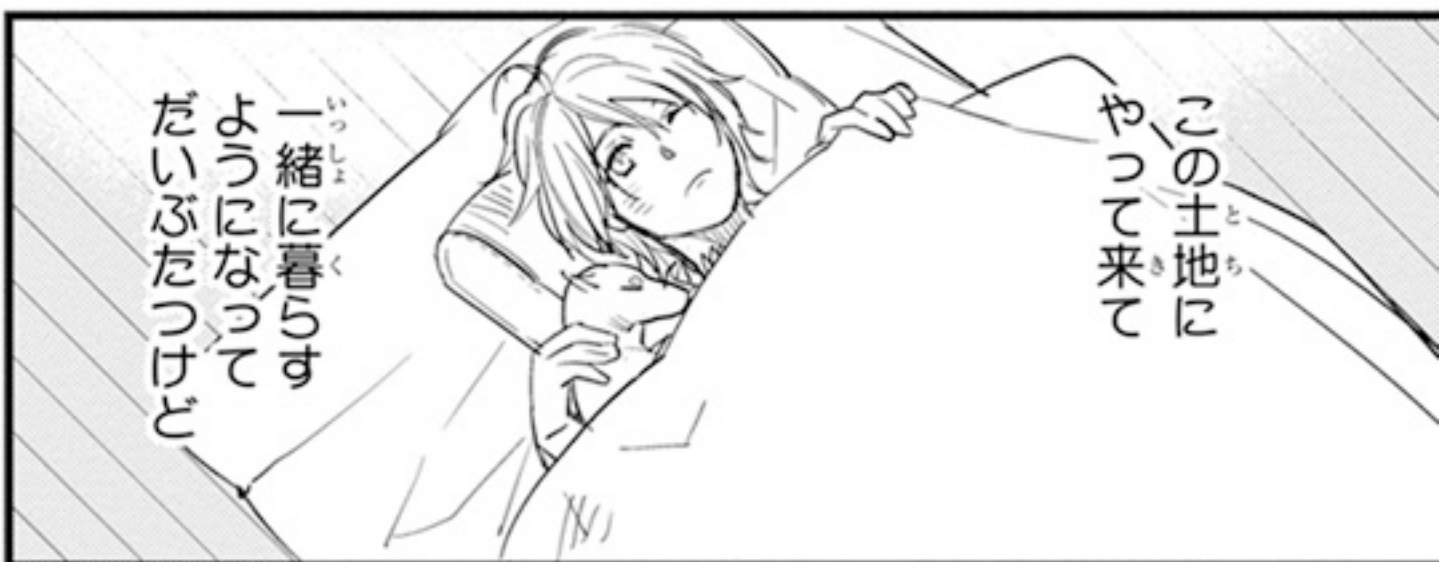
…うん



こいつの愚痴は
長いんだ
少しつきあって
やらんとね



俺
あまり神様のこと
知らないのかも…



一緒に暮らす
ようになつて
だいぶたつけど

この土地に
やっ来て

知らないこと
たくさんある…